

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 1月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2276400278
法人名	有限会社 グループホーム 布衣乃郷
事業所名	グループホーム 布衣乃郷(ほいのさと)
所在地 (電話番号)	袋井市堀越694-1 (0538-44-8111)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年10月25日

## 【情報提供票より】(平成20年10月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	15 人
常勤	6 人
非常勤	7 人
常勤換算	人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	A棟 (鉄骨)造り(2階建て) / B棟 木造平屋造り(1階建て)	
	2 階建ての1階~2階及び1階建ての1階	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年10月9日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田内科消化器科医院 袋井市民病院 みどり歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋造りの外観は一般の民家を思わせるような家庭的で温かい雰囲気があり、軒先に揺れる洗濯物からは利用者それぞれの当たり前暮らしが感じられる。吹き抜けの明るい玄関には花やベンチが置かれ、ゆったりとした空間となっている。開設以来、職員の退職は殆どなく、利用者が馴染みの関係の中で安心して暮らせる環境は事業所の財産であり特徴と言える。最近では小中学生やボランティアが気軽に事業所を訪れたり、また、利用者が運動会や文化祭など地域の行事に参加する機会を積極的に取り入れるなど、地域住民との関わりを大切にしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議は定期的開催されるようになり、地域住民との交流が盛んに行われ、地域の一人としての意識が高められるような取り組みがなされていた。職員は自己評価及び外部評価の意義や目的を理解し、自己評価は全職員で取り組んでいた。市の防災訓練への参加や事業所独自の火災発生場所を想定した訓練など実施するなど災害対策への取り組みがなされていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員一人ひとりが取り組んでおり、管理者は自己評価結果を纏めたものを職員に回覧し、情報を共有するようにしている。自己評価はケアサービスの振り返りと見直しができる良いチャンスとなる。今後は職員全員で話し合い共有できるような取り組みが期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2~3ヶ月に1回開催され、家族・民生委員・自治会班長・包括支援センター職員等がメンバーとして参加し、外部評価結果や事業所の取り組み、利用者の様子など報告する機会としている。昨年より参加者、開催回数も増え、管理者は話し合いの場を積極的に活用しようとする意欲がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	季節ごとのホーム便りとともに、金銭管理や日頃の利用者の様子などを家族に報告している。また、些細なことでもすぐに家族へ電話で連絡し情報を提供している。家族アンケートでは職員の言葉掛けが多く、気軽に話せる雰囲気があるという感想が多く寄せられていた。家族の苦情や相談は連絡ノートに丁寧に記録され、随時カンファレンスで検討し改善するよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	幼稚園の雛祭りや小学校の運動会に招かれたり、小中学生のボランティア体験を積極的に受け入れるなど、双方向での行き来がある。また、地域の文化祭や作品展示会へ出かけたり、ハーモニカ、手品、紙芝居などのボランティアが定期的に訪れるなど地域との交流が盛んに行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、「自分らしくありのままに」「自由でのんびり、ゆったりとした心地よい生活」をモットーに利用者一人ひとりを尊重したサービスを理念を掲げている。管理者は地域住民との関わりを大切にしたい内容を盛り込んで行きたいと検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や廊下、食堂には理念が明示されており、月1回のカンファレンスでは職員全員が理念を復唱し、日頃の関わりの中で理念が具現化されているか確認し合っている。職員からは地域との交わりを大切にしているとの言葉が聞かれていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園の雛祭りや小学校の運動会に招かれたり、小中学生のボランティア体験を積極的に受け入れるなど、双方向での行き来がある。また、地域の文化祭や作品展示会へ出かけたり、ハーモニカ、手品、紙芝居などのボランティアが定期的に訪れるなど地域との交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は運営推進会議で報告し、玄関等に掲示している。自己評価は職員一人ひとりが取り組んでおり、管理者は自己評価結果をまとめたものを職員に回覧している。	○	自己評価はケアサービスの振り返りと見直しができる良いチャンスである。評価結果を活かし具体的な改善に繋がっていく為に、職員全員で話し合い共有できるような取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回開催している。家族・民生委員・自治会班長・包括支援センター職員等がメンバーとして参加し、外部評価結果や事業所の取り組み、利用者の様子など報告する機会としている。昨年より参加者、開催回数も増え、管理者は会議を積極的に活用しようとする意欲がある。	○	市の担当職員への参加の呼びかけや地域老人会などにも働き掛けるなど、幅広い立場の人々の参加のもと情報交換出来るような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は定期的に市を訪問し、ホーム便りを配布したり利用者の様子を伝えるようにしている。	○	市の職員が事業所の行事に参加する機会を作るなど、事業所の実状を共有し、共にサービスの質の向上に向けて協働できる関係作りへの取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節ごとのホーム便りと共に、金銭管理や日頃の利用者の様子などを家族に報告している。家族の面会時には声を掛け日頃の様子を伝えている。また、些細なことでもすぐに家族へ連絡し情報を提供しよう心掛けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートでは職員の言葉掛けが多く、気軽に話せる雰囲気があるという感想が多い。家族の苦情や相談は連絡ノートに丁寧に記録され、随時カンファレンス等で検討し改善するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職を低減するために、働きやすい職場作りを心掛けている。開設以来、職員の退職は殆どなく利用者との馴染みの関係が維持されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後3ヶ月以内と年1回、OJT(職場内での実務研修)による研修を行い、外部研修には毎年2名ずつ順番に受講するようにしている。	○	非常勤の職員も含め、それぞれの経験や職種に応じた事業所独自の具体的な教育計画を立て、職員個々の質の向上に向けた取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流がある。利用者と職員が訪問しお互いのサービスの向上のための情報交換をする機会としている。	○	近隣グループホームとの交流をきっかけに情報交換の場がより拡大されることでサービスの質の向上に繋がる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には利用者宅訪問したり体験入居も行き、職員や事業所の雰囲気に慣れるようにしている。家族から家庭での生活の様子などを聞き、これまでの生活に出来るだけ添うように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日のうちでゆったりと過ごせる時間を持ち、一緒に洗濯物を干したり畳んだり、利用者それぞれの得意とする事や持てる力に関心を寄せながら、共に暮らす同士として支え合える関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、趣味、嗜好など家族からの情報をふまえて利用者や接する中で希望、意向の把握に努めている。まだ出来るんだと思える様に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活の中で職員が気付いた事の毎日の記録はカンファレンスシート作成に反映され、職員会議で意見交換し計画策定をしている。家族の意見も取り入れて作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に現状把握し、本人にあったプランづくりを目指している。毎日の記録、受診ノート、診療ノートを記録、月1回のカンファレンスを行い3月に1度の見直しをしている。また状況変化には随時計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の意思、家族の思いに添えるよう通院、外泊、外食への同行など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、協力医の定期的な受診、本人希望によるかかりつけ医の受診を行っている。そして市民健康検診も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合でも本人 家族の意向を踏まえ充分話し合い、最後までその人らしく暮らせるよう努めている。ホームで終末期を迎えた利用者を希望通り全員で見送った経験がある。	○	ターミナルの問題は一様に行える問題ではないがその経験を活かして、早期に本人 家族 担当医等と話し合いが持てるよう、ホームとしての方針を職員全員で共有出来るよう今後に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや利用者とのコミュニケーションを重視し、プライバシーに配慮した支援が行われている。記録類は事務所に保管され事務員が配置されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は利用者本人のペースに沿って、自由にのんびりとその理念通りに支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを担当する職員が中心に、食卓は季節のもので賑わい利用者の笑顔があった。おにぎり、おはぎ等希望を取り入れ献立作りがなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて入浴を楽しめるように支援している。通常、午後の時間帯で1日おきに支援されている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来る事、好きな事の中で役割や楽しみを持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一番の楽しみは近郊への外出で花見・買い物・散歩の機会は多く、訪問当日も午前は近隣小学校の運動会見学、午後は花見の外出支援が行われていた。家族アンケートにも喜びの結果が出ていた。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠なしで自由な暮らしを支援している。常に利用者の様子を見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市の防災訓練をはじめとして消防署との非常訓練は定期的実施、記録されている。 ADEの使用・心肺蘇生法・非常ベル・連絡網による訓練・火災発生場所を想定した訓練など実施し、後の反省も記録されている。今後近隣との協力の話し合いを予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材のバランスを考えて職員が献立を作成し、毎回食事摂取量をチェックしている。そして月1回の体重測定を実施している。	○	食事は健康の基本である。栄養のバランス、水分補給も含め1日の総摂取量が分かるような工夫をしてそれぞれの利用者の健康管理に活用されることをお勧めしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のリビングは和室のスペースがあり心地よく暮らせる場所となっている。廊下に椅子が置かれ自由に利用できるよう配慮されている。利用者の目にわかりやすい大きな時計が掛けられている。案内板に近隣小学校生徒の運動会の招待状が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの家庭で使用されていた家具、好みの物が飾られその人らしい居室になっている。また安全にも配慮されていた。		